

脱原発「金八デモ」は続く

ドラム隊盛り上げ ■春は花見も

八王子

参加者減り 試行錯誤

脱原発を訴える毎週金曜日の首相官邸前の抗議活動に合わせ、東京都八王子市のJR八王子駅周辺でも昨年九月からデモが続いている。名付けて「金八デモ」。官邸前まで行けない人たちが声を上げられる貴重な場所だが、当初二百人いた参加者が最近では五十人ぐらいに減った。脱原発の明かりを絶やさぬよう、主催者の試行錯誤が始まっている。

(福岡範行)



八王子駅周辺で脱原発を訴えながら歩くデモ参加者＝1日、東京都八王子市で

JR八王子駅前には一日夜もデモ参加者が集まった。毎回、東京電力多摩支店前を通り、京王八王子駅近くの公園まで一・七キロを

ほ感じている。脱原発への世間の熱は冷めつつあるようにも思う。楽しいな雰囲気を感じ、先週から比較的若い四十代の人ら数人でドラム隊を組織した。エネルギー問題の最近の動きを調べて出発前に披露し、

「時間ほど歩く。」

参加者の多くは高齢者だ。市内の主婦高柳八重子さん(モ)は、近所に住む認知症の母を介護している。「母の様子を二時間に一度は見に行っているから、遠くには行けないんです」と漏らす。

東京電力福島第一原発事故で原発の怖さを痛感した。官邸前に行きたいと思ったが、百歳の母を思い、諦めていた。金八デモが始ま

デモが学習の機会になるよう工夫した。春には花見付きのイベント。デモも開く予定だ。

「参加者を固定メンバーだけにしたくない。来たことのない若者も加わるようにしたい」。市民の輪を地

つてからは体調を崩した一回を除き皆勤だ。デモにどういう効果があるかは分からない。「でも他に表現の仕方がない。何として

も原発以外のエネルギーの研究開発に税金を向けさせたい」と話す。金八デモは東日本大震災後、八王子市で食べ物などの放射線測定を続けている市民グループ「ハカルワカル広場」のメンバーが始めた。当初は子ども連れの母親もいたが、寒さが厳しくなると子ども

の体調悪化を心配して参加は減った。

に、西田さんは前を向いている。

官邸前でも

「大飯止めろ」

脱原発を求めて毎週金曜日に続いている抗議活動が一日夕、東京・永田町の首相官邸前などであった。参加者た

開催を月一回程度に減らす案も出て、昨年十二月末に参加者二十人余りで話し合った。「私たちの思いを表す場をなくしたくない」「毎週だからこそ集まれる」と次々声が上がった。活動を続けるため、十人で金八デモ実行委員会を組織した。「原発反対」とシチュプレヒコールを上げる人だけでなく、ただ歩く人も、おしゃべりする人もいる穏やかな活動だ。それでも「『デモは怖い』と思う人は多い」と、実行委の世話人西田照子さん(モ)を